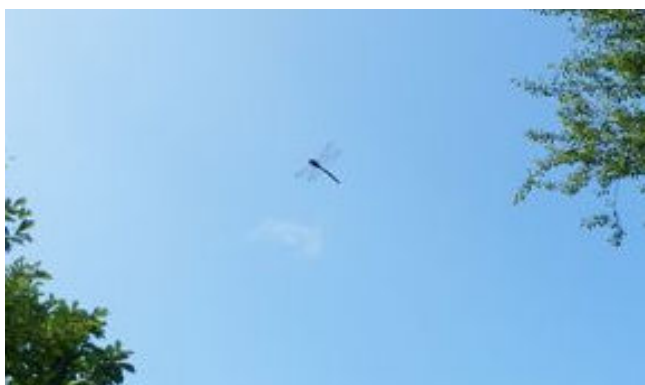


コオニヤンマ

澄川の作業に参加すべくバスに乗って間もなく、フロントのワイパーが動き始めたので、雨が降ってきたことがわかったのですが、ままよ、このまま行こうと決めました。小雨降る中、澄川森林の鉄扉の鍵を開けて入林しましたが、次の人がなかなか現われません。日にちを間違えたのかと思い、酒井さんに電



話したら、地下鉄自衛隊前から引き返すとのこと。やがて、数人の参加者が来ましたが、本降り気配だし、遠雷が聞こえ不気味だったので、矢澤さんと私のみが残り、他は中止ということで、引き揚げとなりました。残った2人で物置の内装工事にとりかかりました。物置は屋根があるので雨でも作業ができるのですが、10時過ぎには小降りになり、10時半にはすっかり晴れ上がりました。すぐに森全体が物凄い蝉時雨となりました。ヤンマトンボが悠々と基地の空間を遊弋しはじめました。オニヤンマに見えましたが、少し小ぶりです。飛翔中の姿をゲットしました。コオニヤンマでした。2013年8月12日(月)10時30分と記録しておきます。

コオニヤンマはオニヤンマによく似ているのですが、サナエトンボ科に属していて、オニヤンマとは明らかに違うのです。掴まえて複眼を較べて見るとはっきりするのです。オニは両眼の間に隙間がありませんが、コオニはサナエ科らしく、両眼の間に隙間があるのです。大きさだけでも較べられれば区別はつきます。なにしろオニの方は日本産のトンボでは最大ですから。

コオニの分布は結構広くて、屋久島・種子島以北の日本全土の他に朝鮮半島から中国大陸にまでらしいので、頑張っているのです。

作業を終えて、片付け始めた頃、コエゾゼミの大合唱に混じってツクツクボウシの声が聞こえてきました。澄川にもいるのです。物置の中には大きなウシアブが飛び回っているし、外にはヤナギで育てられた美蝶のコムラサキが飛び交っていました。足元にはノコギリクワガタがうろうろ。孵化して間もないようなカナヘビの赤ちゃんがちよろちよろ、朝がたテントの中で黴がはえたコエゾゼミ



の死骸を石川さんが見つけましたが、コエゾの死骸はそこここに転がっていました。まだわんわん鳴いているものもあり、役目を終えて土に還るものありで、生き物の世界もあわただしいことでありました。

澄川森林へのアプローチの道すがらススキが穂を出していました。つい先日元旦だったような気がしますが、自然はもはや秋の気配なのであります。